

第4回看護研究会

(管 理 者 研 修 会)

令和 6年12月10日 (火)

ハイブリッド開催

(受講会場：岡山県医師会館)

[午前]

演 題 『いま、あらためて 「看護の本質」の伝承を!』

講 師 北海道医療大学 名誉教授 石 垣 靖 子 先生

[午後]

演 題 『コーチングマインドが、マネジメントをもっと楽しくする』

講 師 オフィス KATSUHARA 代表 勝原裕美子 氏

一般社団法人 岡 山 県 病 院 協 会

(注：類似した感想はまとめています。)

第4回看護研究会（管理者研修会）のアンケート集計（令和6年12月10日）

（52病院179名 出席 ・ 144名 回答）

1. 講演『いま、あらためて「看護の本質」の伝承を！』を聞いて。

（講師：北海道医療大学 石垣 靖子 名誉教授）

A.

a. 大変勉強になった	93名	c. 勉強にならなかった	2名
b. 勉強になった	49名	d. 全く勉強にならなかった	0名

B. 感想があれば一言。

- ・ 石垣先生の講義にはいつも明日からの活力をいただいている。ありがとうございました
- ・ 毎年石垣先生の講演を聴くことが、自分の看護職としてのモチベーション維持につながっている。ありがとうございます。また1年頑張れそう
- ・ 石垣先生の講演を生で聞くことができありがたく、何度聞いても感銘を受ける
- ・ 先生の穏やかでなんでも受け止めてくださる雰囲気、すごいなあと思うばかり
- ・ 石垣先生が好きなので、自分にとってはとても贅沢な時間だった
- ・ 穏やかな語り口に気持ちがとても安らいだ
- ・ 先生の優しい言葉に引き込まれた
- ・ 昨年も講演を聞いたので復習にもなった
- ・ 初心にもどれた
- ・ 胸が熱くなるお話が聞けて良かった
- ・ 自分が大切にしていたことを思い出せた
- ・ 大切にすることが何かを考え直すことができた
- ・ 「看護」を大切にしていこうと思った
- ・ 改めて原点に戻る大切さを感じた
- ・ 看護の原点に戻りケアに努める
- ・ 事例があり、ケアの力を再認識できた
- ・ 看護は「愛」だと思う
- ・ 自分のことを振り返るよいチャンスになり、自分を大切にしようと思った
- ・ 自分の看護を見直すことができた。後輩に伝えていくことの難しさを感じている
- ・ 看護のとても大事なことをあらためて考えること、思い出すことができた
- ・ 看護という大切さを改めて見直し、看護観を考えることができた
- ・ 改めて看護を振り返ることができた・振り返るきっかけになった(2)
- ・ 看護師にできるケアで患者さんを助けたいと思った
- ・ 本当の患者中心の看護を行うため必要なヒントを学べた
- ・ ナイチンゲールやヘンダーソンの話を聞いて、学生の頃を思い出し初心に帰ることができた
- ・ 看護学生時代を思い出し、原点に立ち返る機会になった。たった一度の人生なので自分を労りながら、看護師を続けていきたいと思う
- ・ 看護師であることの尊さを自分の中にも大切にしていきたい
- ・ ナイチンゲールってやっぱりすごいと再認識した
- ・ 学生の頃にヘンダーソンで学んだ自分だが、ナイチンゲールの言葉を改めてお聞きしたことで、今こそ必要な看護であり、そこには倫理観を育てる要素があったことも実感した
- ・ 看護の本質はいつになっても変わらないと改めて感じた
- ・ 看護の本質を改めて実感できた
- ・ “看護の本質”が何であったのかを思い出すことができた
- ・ 現場の忙しさに追われていたが、看護の本質を取り戻すことができた
- ・ 看護の本質、看護師のあり方、可能性があることを知ることができた
- ・ 看護の本質を改めて感じ、行っていることの責任とやりがいを再度実感でき元気をいただけた
- ・ 看護の本質を学ぶことで、自分が看護師として患者さんに行うケアについて改めて考えることができた

- ・ 病院・仕事として日常を過ごしているが、患者さんが今どうしてほしいか読み取れる看護をすることが看護の本質で、忘れかけそうになっていた大切なことを思い出すことができた
- ・ 改めて看護の本質、三角形の底辺である「愛」をもっと広げ、伝えること
- ・ 看護は正三角形、底辺は態度（愛）。技、知だけでは看護が成り立たないという話を聞き、底辺となる看護に対する思い、態度を大切にしたいと思った
- ・ 看護する者として、態度（人間性・ケアに向かう姿勢）が大切であることを認識できた
- ・ 看護の心を忘れ、時間に追われて知と技にとらわれている場面を見て悲しくなる時がある。人手不足を理由にはいけないと、看護の大切な所を改めて思い出すことができた
- ・ 看護の心のないところに看護はない、ということはずっと忘れずにいることを心掛けて過ごそうと思った
- ・ 看護は正三角形、底辺をしっかりと。心に強く残った。機会があれば講演を聞かせていただいているが、毎回どうあるべきかを考えさせられ、原点に戻るきっかけとなっている。ありがとうございます。パワーをいただいた
- ・ 技術・知識だけではなく、態度を育てることが本当に大切だと思った
- ・ 看護の本質を伝えることは大切であるが難しい。重要なリソースを学べた。看護学生にも関わっているため、臨床と育成に活かせる内容だった
- ・ 看護職は“小さなこまごまとしたこと”の中で高度の優秀性が要求される職であることを再認識した
- ・ 学んだことを実践しながら振り返る。その繰り返しが自分や組織の「知」となり「技」となっていくことを学ぶことができた
- ・ 「最善」「自由であること」「自分を愛おしむこと」本当に心に響いた。今まで仕事・仕事ばかりの人生だった。自分自身を大事にすること、自由に仕事すること、人生一度きり、後悔のないように生きていきたいと思った。自分を大事にした分、他者へ思いやりを持ち接することができる。管理者として生き生きとポジティブに仕事を頑張っていきたい
- ・ 「自ら選んだ看護師という職業に生きがい」という言葉が心に響いた。自分も同僚も、全ての看護師が生きがいを持ち人生を生きると、生き活きとした組織になると思った
- ・ 誰のための看護か、何のための看護か考えることができた。自分自身も大切にしたいと思った
- ・ 他人のために何かしようとするれば、自分は安全で健康でなければより良い支援ができないと感じた。特に管理者には大切だと感じた
- ・ 他人のために何かをしようとするなら、まず自分自身が健康であること。自分に対して寛容であることが大切であると学んだ
- ・ 他人のために何かをするには自分が健康でなくてはならないというところで、まず自分を大事にし健康であると他人に優しくなれるということを実践していきたい
- ・ 自分自身を健全に保つことで心の余裕をもって対応することができる。自分を認めてあげることも大切であると感じた
- ・ 人間として一人ひとりを大切にしていく（患者さん・スタッフ共に）
- ・ 相手・患者を大切にするために、自分自身も大切にすること。あなたは大切な人です、ということを引きちゃんと伝えていきたいと思う（スタッフへも患者さんへも）
- ・ “自分を大切に”ということが印象に残った。管理の立場だと自分より部署のことをまず考えることが多いので、改めて自分のことを考えてみようと思った
- ・ 自分を大切にすることで、他者を大切にできる。自己肯定が大切だと思った
- ・ 自分を大切にすることが、患者さんやスタッフを大切にすることに繋がる
- ・ 自分を大事に思い、相手を思いやる気持ちを持つ

- ・ 自分に対して寛容になること。自己への思いやりと他者への思いやりはリンクしている。促進するために心掛けていきたい
- ・ 患者さんのお寿司屋さんの話を想像して涙が出そうになった。人を“想う”気持ち、当たり前なことだけれど大切だと改めて気づかされた
 - ・ 誰もがかげがえのない人
- ・ 自分が元気でいられるようにしたいと思った
 - ・ 自分のことも大切にする
- ・ 看護するためにはまず自分を大切にする
 - ・ その人らしさを大切にしたい
- ・ 倫理観を改めて考えることができた
 - ・ 相手も自分も大切にする
- ・ 倫理課題に取り組むにあたり、何から手をつければよいのか頭が整理できていなかったが、看護の本質に立ち返ってみることが大切だと学ぶことができた。また自分自身を大事にすることで、スタッフや患者さんへも幸せが伝播するとお聞きし、身近なことから取り組めばよいのだという安心感も得ることができた。ありがとうございました
- ・ 日頃の業務・管理に追われていて、立ち止まれる・人の優しさについて振り返れるよい時間になった。先生の優しい話し方に癒された
- ・ 立場上、患者さんの傍に行き話をする時間がずいぶん減ってしまっている中で「雑談の中でナースはケアをしながら相手の人生に触れることができる」という言葉を聞いて、自分の看護に対する思いを思い出し、初心に戻ろうと思った
- ・ それぞれが何を大事に看護をしているかを知り、それが実践できるような関わりをしていきたい。ダウンロードした資料にあった看護の実践部分の話をもう少し聞きたかった
- ・ スタッフの教育を見直して、現場できちんと育てていくことに力を入れていこうと思った
- ・ サーバントリーダーシップをとりながら、イキイキした組織を作り、スタッフをどう育てていくのが大切だということがよく分かった
- ・ サーバントリーダーシップをもう少し学びたくなった。身体拘束最小化に活かしたい
- ・ 後ろから支えることのできるリーダーを目指したい
- ・ リーダーはチームを引っ張るのではなく支える
- ・ 「ありがとう」は大事な言葉、たくさん使おうと思う。リーダーは引っ張っていくのではなく後ろから支えていくことが重要であると知ることができた。日々の業務に追われ、看護の原点に改めて戻れたように思った
- ・ 患者さんの QOL を高めるために、看護スタッフ一人ひとりが責任を伴った自由を得て、想像力を働かせてイキイキ看護ができるように支援していきたいと思った
- ・ 患者中心といいつつ、視点がズレているのかもしれないと思った。スタッフ一人ひとりが主役になれるよう、支えることができるようになりたい
- ・ 引っ張っていく人ではなく、見守りながら後ろから支えるリーダーでありたいと思った
- ・ 患者さんに対しても他の職員に対しても、その人の人生を知る・触れることがいかに大切かよく分かった
- ・ 人生は一度きり。誰しも一度きりで今しかない。その人らしくを大切にできる看護師でいたい
- ・ 患者さんの人生に少しでも寄り添う看護をしていきたいと思った
- ・ 人生の上位目標という言葉から、患者さんが何を一番大切にされているのかを話していくことの大切さを考えることができた
- ・ 幸せに長生きする医療を目指し、患者様の心を大切にしていきたいと思う
- ・ ありがとうございました。「患者さんと同じ方向を見る」大切にする
- ・ 改めて患者さんの立場に立って看護していくこと、心に届いた

- ・ “医療ケアは患者・家族の自由度を広げる挑戦である”ということが印象に残った
- ・ 一人ひとりのスタッフの知識と技を身につける指導。自由であることが生きていくうえで一番大事なこと。自由のないところに「創造性」は育たない
- ・ 管理者が自由だとスタッフも自由になる。自由のないところに創造性は育たない。創造性は師長にかかっている、との言葉が刺さった
- ・ 「自由がなければ創造性は育たない」という言葉に心を打たれた。自由を与えられる場を作り、スタッフ一人ひとりが創造性を持つことでやりがいと生まれると良いと思い、現場の雰囲気作りを考えていきたいと感じた
- ・ 管理者について、病院・スタッフを守る考えが増えてきたが、患者を守る・自由でいさせてあげられるようなNsであり続けたい
- ・ 自由な考え・自由な発言ができることを、ありのままに受け入れるようにしていきたい
- ・ ケアの力で人間の尊厳を取り戻せるよう、スタッフ一人ひとり力をつけていきたい
- ・ 倫理について、患者さん主体で人権尊重に注意して取り組みたい
- ・ 倫理観を大切に、患者・家族・スタッフに寄り添えるよう興味を持ち声をかけていこうと思った
- ・ 患者が意思表示ができないケースでのCFをよく行う。いつも迷うが、家族の代理意思決定（代弁）を支えながら丁寧に関わりたいと改めて思った
- ・ 急性期病院でできる意思決定支援に引き続き取り組み、地域へつなげていきたい
- ・ 地域で働く看護師を増やしていかなければいけないと思った。先生の声に癒やされた。ありがとうございました
- ・ 身体拘束低減への取り組みやその意味について改めて原点に帰り考えることができた
- ・ 身体拘束最小化するには、職員の意識を変える!! 教育・研修に努めて、特にユマニチュードの定着!! 部署で取り組んでいこうと思った
- ・ 身体拘束に対し、いかに拘束を減らすかということで悩んでいる。ヒントがいくつかあったので考えていきたいと思う
- ・ 身体拘束に関してチームで取り組むところ。まず職員の意識改革から取り組みたいと感じた
- ・ 身体拘束をなくすのは師長次第だと言われていたので、ハッとした
- ・ 身体拘束に関しては、拘束を安易にすることは良くないが、なくすことは現状では厳しいと思う
- ・ 理想と現場のギャップを強く感じた ・ ただ、今のスタッフに本質を伝承するには難しい
- ・ 資料は少々混乱した。内容は大変為になった
- ・ 学ぶことが多かったが、内容がとても深く考えさせられた
- ・ 今パワーポイント資料のどこを説明しているのか、途中分からなくなった。昔の情報が多かった気がした
- ・ マイクを通して声聞き取りづらく残念だった ・ 聞き取りにくくて残念だった

2. 講演『コーチングマインドが、マネジメントをもっと楽しくする』を聞いて。

(講師： オフィス KATSUHARA 勝原裕美子 代表)

A.

a. 大変勉強になった	109名	c. 勉強にならなかった	0名
b. 勉強になった	35名	d. 全く勉強にならなかった	0名

B. 感想があれば一言。

- ・ 実践していこうと思えた
- ・ コーチングが身近に感じた。ありがとうございました
- ・ すぐに実践に活かすことができる
- ・ ありがとうございました

- ・ 看護管理者にもコーチが必要であることを認識した
- ・ 例えや先生の経験などが具体的にあり、分かりやすい講義だった。ありがとうございました
- ・ 今までもコーチングの講義を受けたことがあるが、先生のお話が一番楽しかった。ワークをしながらとても具体的で分かりやすかった
- ・ 勝手に7秒コーチング、頑張ってみよう・使っていきたい(2)
- ・ 勝手に7秒コーチング、活用したい。まずは日常生活（プライベート）の中で取り入れてみる
- ・ コーチングの素晴らしさが改めて分かった。これからは生かしていきたい
- ・ コーチングについて改めて深めることができ、管理者としてスタッフに対して活かしていきたい
- ・ とても元気がもらえるお話で、あっという間の2時間だった。明日から使えるコーチングの小技巧が得られたと思う
- ・ カウンセリングを受けているようだった。自分もこのようなスキルを身につけていきたい
- ・ 総師長に書籍をもらったので読んでいて、まさか著者に会えると思っておらず、楽しかった
- ・ 色選びが楽しかった。みんなで色選びを共有した。笑いがあり良い学びができた
- ・ 楽しい内容だった。気持ちを楽にして仕事できそう
- ・ 気持ちが明るくなった
- ・ モヤモヤしていたが晴れた。ありがとうございました
- ・ 自分の目標イメージを作る
- ・ 笑顔とありがとうが足りていないと気付けた
- ・ 相手を知ることから始める
- ・ 自分の内面を見つめることができた
- ・ 相手をほめることは照れくさくてハードルが高いと思っていた。「ほめることは評価すること」というお言葉で合点がいった。ほめようとするのではなく、自分にとって良かったことを素直に言葉にすればいいのであればできそうな気がした
- ・ コーチングは「相手を導かなくては・・・」という考えが強かったが、自分基準で相手を判断・評価しがちだったので、認識の歪みをなくして相手に関心を寄せるようにしたいと思った。「ほめる」は評価になる、という言葉は目からウロコだった。自然に感じた良い感情をIメッセージで伝えられるようにしたい
- ・ 人は結果で早く出したいという気持ちが強く、間違ったことに対して先に注意しがちであり、その人のよいところを見つけ、「だけどね」ではなく「だからこそあなたと一緒に考えたい」など一言一言を考えながら関わっていきたいと思う
- ・ 相手を否定せず聴くこと。価値観を押し付けない。「いいねえ」「だからこそ」を使いたいと思う
- ・ 苦手な人の対応が悩み事だった。苦手な上に自分より随分年上の看護師なのでどういう接し方をしたらいいのか分からなかったが、その人の良い所を見つけることから始めていきたいと思った
- ・ マイナスばかりでなく、みんながポジティブな気持ちになれるように努力していきたい
- ・ 自分が笑顔で出勤することで他のスタッフが笑顔で仕事できるよう雰囲気作りができたらと思う。プチハッピーを意識して生活していこうと思う。相手の良いところ探しをしていこうと思う
- ・ 楽しいか楽しくないかは自分で決められる。ポジティブな考え方のできる人でありたいと思う
- ・ 自分もポジティブに視野を広げてみなければならぬと思った
- ・ ポジティブでいることの大切さを理解した
- ・ ネガティブをポジティブに変える
- ・ プチハッピーを見つけて笑顔でいたいと思った
- ・ プチハッピーを探す
- ・ 何か少し行動できたら、と思った。プチハッピーを心がけてみる
- ・ プチハッピーを大切に感謝して苦手意識を克服してみる。ありがとうございました
- ・ 感謝のワークを寝る前にしている(3つ良かったことを書く)。日々の小さなことにも感謝できるようになった
- ・ プチハッピーがなかなか思いつかず、自分の心がとても疲れているのだと思った

- ・ プチハッピーを見つけることも大変で、ネガティブになってしまっている、小さな幸せを見逃してしまっているのだと思い、ゆっくり考える時間を持てて良かった
- ・ 認知モデルを変化しておくことで、自分も前向きに取り組める
- ・ 自分の苦手なところを、一つずつでも考え方を変えてみたい
- ・ 苦手な相手にもいいところがあるので、見方が変わった
 - ・ その人の良い所を見つけていく
- ・ 苦手な人も考え方を換えれば普通の人。だからこそ・を使って話ができるよう気をつけていこうと思う
- ・ 苦手な人も嫌な人も自分を苦しめるためにいるのではない、と思い接していこうと思った
- ・ 苦手なスタッフへの対応。スタッフの捉え方。知ろうとする気持ちを大切にしていきたい
- ・ 苦手な人の普通の部分を見ること。そこに注目して一緒にやっていく。自分に起きた良いことも知っているの、苦手は苦手だが見方を換えていく
- ・ スタッフとの関わり方で失敗したなど感じていたことがあり、どう関われば良かったのか悩んでいたが、答えをいただくことができてスッキリした。ありがとうございました
- ・ その人の良い所から、自分にとっての良い所につなげる考え方が勉強になった
- ・ 「他（スタッフ）をほめる」ことを意識して行っていたが、「自分をほめる」「自分を大切にする」ことも、前向きに・ポジティブに仕事をする上では必要だと思った
- ・ 自分のため、職場の雰囲気のため、自分の思考を訓練していきたい
- ・ 楽しく研修ができた。他者に向ける考えが少し変わると思う
- ・ 自分の気持ちの切り替え、わくわくする自分を作る方向でいたいと思った
- ・ 自分の考え方・視点を変えることができた・よいきっかけになった(3)
- ・ 自分の考え方・捉え方について考え直した。自分自身も健康であることが重要だと思った
- ・ 考え方、言葉の遊び方、意識の持ち方が学べてよかった
- ・ 自分の仕事への考え、仲間への気持ちの持ち方を考えるいい機会になった
- ・ 仲間を大切にしていきたいと思う。もちろん自分も
- ・ 日々の職場の何気ない出来事を深く考えること。そして、自分にとって良いと感じたことを自分の言葉でスタッフに伝えていきたいと思った
- ・ スタッフとの関わりで困難を感じる場面があったが、自分自身が評価をしながら見てネガティブな要素に意識が行っていることに気づいた
- ・ 相手を変えることはできないので、自分を変えるしかないを知っていたが、どうするか具体的に学べた
- ・ 「～せねばならぬ」と自己暗示をかけていると感じた。相手の見ている世界に関心を向けて、話をしていきたいと思った
- ・ 自分を許してあげようと思った。他者は自分とみている世界が違うと思って関わっていく
- ・ 自分が勝手に思い込んでいた“こうあらねば”という思いに気づいた。小さな幸せをたくさん見つけてポジティブになれるようにしたい
- ・ 自分の認知を変えることができる
 - ・ 見方、認知を変えることが大切
- ・ 自分の認知を変えることの必要性が、事例を通して理解できた
- ・ 自分の認知は変えることができる。スタッフに関心を持ち知ろうとすることが重要だと学んだ
- ・ 曖昧はいけない認識だったが、イメージでいいんだと思うともっと人のいいところが見えてきた感じがした
- ・ まずゴールセッティングをして、それに向かってできるようにしていきたい。苦手な人の苦手なところばかりに着目するのではなく普通のところ・良いところを見ていけるようにしていきたい
- ・ いろんな考え方があるという考え。イメージでゴールをセットする。日々小さな目標をセットしていきたい

- ・ 割れた皿の部分ばかりに目を向けないようにしていきたいと思う
- ・ 出来ていないことばかりに目を向けるのではなく、出来ていることに目を向けるようにしていきたい
- ・ 見方を変えること。嫌なところ・ダメなところばかり見ないで、できていることを見つけること
- ・ できていない所ばかりに目を向けてしまっていたが、それ以外にも注目していきたいと思えた
- ・ 相手を知ることによって自分のものの見方を変えてみようと思った。楽しい講演だった。ありがとうございました
- ・ 見方を変えることで、自分も他者への関りも変わる
- ・ “楽しいこと・楽しくないことを設定することができる” “当たり前と思うから幸せとは思わない” 視点を変えることで変われることに気づいた（例をとおして実感した）
- ・ あなたの存在のおかげで私は幸せだと毎日思っていたと思った
- ・ 自分が大切にしていることや他の人が大切にしていることを知ろうとすることが必要だと思った
- ・ 自分を認めて、相手も認める
- ・ いつも人はそれぞれ違って当たり前と思っていたけど、他の人に言われて左右される自分がいたが、その人個人を認めていけばよいと思えた
- ・ 自己受容の大切さ。責任を持つが、自由であることの大事さを忘れずに行動していけたらと思う
- ・ 初心を思い出せて良かった。自分と相手を大事にしたい
- ・ 自分を大切にすることもしていこうと思った。自分の認知も変容できる
- ・ 日々の自分自身の心の持ち方が大切だと感じた。物事の考え方を変えることが大切だと感じた
- ・ 自分を大切にすること、楽しいと思えることについて考え方がよく分かった。体感できた
- ・ みんな違う価値観や関心を持っている。自分から興味を持って寄せていく
- ・ 同じものを見ても、みんな同じように見えていない・感じていないということがすごく分かった。自分の評価軸で他者を見てはいけない、みんなそれぞれ軸があり同じではない、違ってよいということを念頭に置き、嫌いにならないようにしようと思う
- ・ 自分を軸にせず、仲間を大切に、相手に関心を寄せて普通のことを考えて関わっていこうと思った
- ・ 自分の基準で評価、判断しない。相手の関心に関心を寄せることの大切さが分かった
- ・ 自分のものさしで他人を評価しない。相手の関心に寄せていく
- ・ それぞれ違う人であることを認識し、相手に関心を寄せていきたい
- ・ 「相手の関心に関心を寄せる」日々信頼を積む努力を楽しみながら行う
- ・ 相手の関心に関心を寄せる、改めて考える機会になった・大変大事だと感じた(2)
- ・ 患者やスタッフに対して、自分の基準で見るのではなく“相手の関心に関心を寄せる”ことを意識していきたいと思った
- ・ 困難事例の打開策を理解することができた。ありがとうございました
- ・ 自己の価値観を押し付けることに気を付けたいと思う
- ・ 自分の価値判断で評価しがちだが、人はそれぞれ違うということを考えることができた
- ・ 自分の価値観で相手を見ない・とても難しいこと。でも関心を持ち関わり続けることが大事と学んだ
- ・ 楽しく学べた。自分の評価軸や価値観で人を見ないことの大切さを改めて学べた
- ・ 相手についてもっと知ろうと思えた。自己の判断・評価を押しつけないようにしようと思った
- ・ 自分と仲間を大切に。自分の評価軸でみない
- ・ 表情が乏しいスタッフがいるので、大頬骨筋トレーニングを勧めてみようと思う
- ・ コーチング方法や実演も見てみたかった
- ・ コーチングはやはり対面グループワークがよい。自分の評価基準で評価してしまっている自分に気づけた
- ・ 楽しく学ばせてもらったが、実際に実行できるか不安がある

3. 今日の講演を聞いて、あなたが活用できる場所は何ですか。

- 7秒コーチング・勝手に7秒コーチング(6)
- 7秒間コーチング。見方を変えること
- 7秒コーチングを活用してみたい(2)
- 7秒ルールやってみる
- 7秒コーチングができるようになれば良いなと思った
- コーチングの活用
- コーチングマインド。良い所を見つける
- 指導方法
- コーチング方法が深まった。具体的に、苦手な人への関わり方
- 自分も7秒コーチングをやってみようと思う。感謝の思いを表現できるようにする
- 行き詰ったときに原点に立ち返ってみる。スタッフへの声掛けの工夫を頑張る
- 頭にホワイトボードを浮かべ、相手の話の内容をイメージし、相手の話すことと自分が思うこととの相違がないかをすり合わせながら、相手の話を具現化する。勝手に7秒コーチングの実践
- 部署内での身体抑制に対する意識が高まるように、指揮をとっていく。話を聞くときには自分軸で考えず、相手軸で考え具体的な内容を聴いていく。そして、どうしたいのか相手から答えを導き出していけるような関わりをする
- どうすればいいか決める時は「じゃあどうする？」と相手に決めてもらう。面談する時は「だからこそ」を使う
- 「だからこそ」を使用する。岡山弁に言い換えると…
- 「だからこそ」を使う。関わる人の良いところ（普通）を考えて、自分に起きた良いことを見つめることによって、自分の認知を変えることの大切さ、相手の関心に関心を寄せることの重要性
- 「だからこそ」を用いる。その人なりの基準ややり方がある上で関わる。相手の関心に関心を寄せる。コーチング→人としての評価・判断をしない
- スタッフ、患者さんなど一人ひとりの心の思いがわからない状況の中でよいところを見つけながら、いつもありがたい気持ちをもっていきたいと思った
- スタッフを広い目で見方を変えてみていく。自由に発言できる場を作る工夫をする
- サーバントリーダーシップという考え方。相手を否定せず。それでもこちらに向かせる方法を活用したい
- 石垣先生の強い思いを感じた。スタッフ個々の人生を知り、仕事・家庭のことを両立できるようサポートしていきたい
- 「自己に対して寛容になる」。自分のあるがままを受け入れることで他者（患者・スタッフ）への関心・思いも受け入れられるようになることを学んだ
- 苦手なスタッフへ「相手の関心に関心を寄せる」を参考に、問題時に「どうして？もっと聞かせて」と掘り下げ、最後は自分としてどう行動するか決めてもらう
- スタッフの人生の一部、情報収集し関心を寄せるサポートが必要。見守りながら後ろから支えるリーダーシップも必要
- 部署ごとに工夫できることを進めていく。見守りながら支えるリーダーになれるようにしたい。人の良いところを見つけていきたい。割れた部分でなく普通のところを探せるように特訓する
- まずは自分を大事にすることをスタッフに伝えていくことで周囲（患者さん、他のスタッフなど）も大事に関わっていける環境を作れたらと思う
- 苦手なスタッフとの関わり方。先入観を持たずにその人をしっかり見てそれを伝えること。些細なことからも始めてみようと思った
- 看護師に生きがいを見出す。ケアの力を実践していく。相手と同じ方方向をみる。スタッフに感謝する。自分の見方を変える
- 職場での倫理観を養うこと
- 看護の底辺は態度→看護の大切なもの、再認識した

- いいね、ありがとうを使いながら相手の世界を知っていこうと思う。真っ白な画用紙で相手を見て知ろうとする
- 自分を大切にすること。スタッフの人生を知り関わることで自分が大切にされていると感じられる関わりができるよう、見守りができるよう努めたいと思う。スタッフの関心に関心を寄せるように普段から声掛けしていきたい
- 自分のことを大切にしながら、人、仲間を大切にしたいと改めて思ったので...その気持ちを大切にしたいと思った
- ありがとうと言うこと。人の良いところを見つけること
- 幸せの三原則を考えてスタッフと関わる
- よかった、私はうれしかった、と思っても言葉にできていないので言葉にしていく
- スタッフへ声をかけること。ありがとうを言うことをしていきたい
- まずは自分自身の考えを広げることで他の人と関わりやすくなると思う
- 普通なことはポジティブなことと考え、ありがとうを伝えていきたい
- 相手の普通のことを見つけて、相手に「ありがとう」と伝えていくこと
- ダメでも OK、自分が好き、ポジティブな気持ちで居ること。「ありがとう。いいね」を相手に伝える
- 患者さんの話を聞くことと、苦手な看護師の良い所を見つけること
- 相手の関心に関心を寄せる。自分の評価軸で聞かない
- 相手に関心を寄せる
- 相手に関心を持つこと、相手の良いところを見つけ伝えること
- 自分自身を大切にすること、相手の普通を見つけること
- 自分が自分らしく笑顔でいることで、他の職員へ良い影響を与えたい
- 自分自身がいい心持ちでいることに心がける
- 自分自身を大切に
- 自分を大切にし、相手も大切にすること
- 自分を大切にすることで人も大切にできる
- 自分を少しでも認め、他者も受け止めていく
- 自分や後輩を大切にすること
- 自分自身を大事にして、自由に関わっていきたいと思った
- 自分が幸せだと他にも優しくなれるため、自分を労わっていき、他の人に優しくなっていきたい
- 自分を大切に思う。相手の悪いところに注目せず、良いところに目を向ける
- ユマニチュード・ユマニチュードの活用(3)
- セルフコントロール、サーバントリーダーシップ
- プチハッピーを探すこと。相手の良いところ探し
- プチハッピーを取り入れていきたい
- プチハッピーを見つける・言語化すること
- プチハッピーで少しポジティブになれそう
- 役職をもらい仕事も増えてしんどいことしかないと思っているが、プチハッピーを考えて自分のメンタルを維持していきたい
- 自分自身がいい心持ちでいるためにプチハッピーや感謝を増やしていきたいと思った
- 「自分の機嫌は自分でとる」ようにしたいと常日頃から考えている。プチハッピーを大切に、いい心持ちで過ごしたいと思う
- 職場内でプチハッピーを発表し、イキイキ度を上げたい
- 自分がイキイキ働いている姿を見せることだと思った
- 自分を認める
- 相手の良いところを見つけ、相手を知るために話を聞く
- 相手の話を聞ききる
- できていることに目を向け、話をしていけるようにする
- 相手を知る努力をする
- まずは相手と同じ視界になってみる。相手の思考を聞いてみる
- 相手の思いにたってみる
- 相手の話をしっかり聞く。自分の物差しで理解しない。いい気持ちで過ごせるように努力する

- ・ 皿の割れた人（自分も含めて）には諦めずに良いところ探しをして関わり続けること
- ・ その人の良いところ（普通のところ）をみつけ、相手に返していく(2)
- ・ 苦手な人も関わるため、相手の普通のこと（よい所）を見つける
- ・ 苦手な人の良いところを探す。避けるばかりしない。自分を大切にしようと思った
- ・ “完璧な人はいない”ということは自分にとっても、今後スタッフを見る時にも温かく見ていけそう
- ・ お皿の割れている部分ではなく、普通にできていることを見られるよう見方を変えることを意識する
- ・ 悪いところばかり見ない。普通にできている所・良いところを認めていく(2)
- ・ その人の悪い部分だけでなく、助かっている部分に着目する
- ・ 相手のできている所に視点を向けるようにすること
- ・ 相手の良い所を見つけていく
- ・ 面接などより前に、普段から相手を知るような行動をする
- ・ 決めつけないで相手の気持ちを大事にしていきたい
- ・ 気分のムラがないようにしたい
- ・ 自分の信念（大事にしていること）でよかったと思えた一日だった
- ・ 身体行動制限についてのスタッフ教育方法を検討したい
- ・ 身体拘束について、抑制しないための教育・研修を充実させていくことが必要であると学んだ
- ・ 身体拘束の最小化に向けて、知識や意見交換ができる職場の雰囲気、時間が持てるようにしたい
- ・ 石垣先生の新しい資料がいただきたい
- ・ とても勉強になる研修内容だった。ありがとうございました

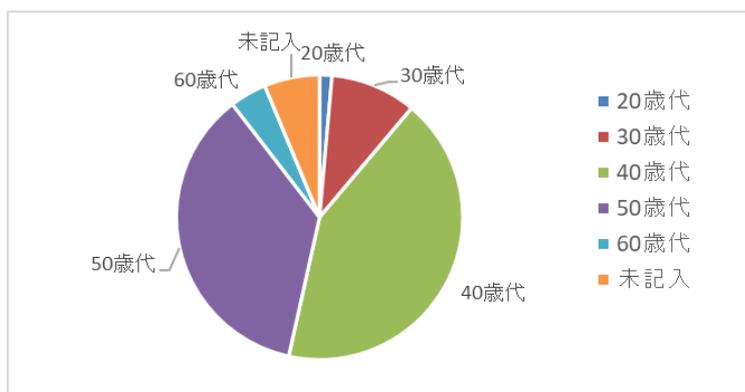
4. 次年度の研究会に希望する講師案と研修内容があれば、ご記入ください。

- ・ 石垣先生の講演は昨年のような具体例をもっと聞きたい
- ・ 石垣先生の講演。今日の内容の資料をお願いします
- ・ 石垣先生の話をもっと聞きたい・来年も来ていただきたい・毎年岡山に来てほしい(3)
- ・ 石垣先生に在宅ケアについてのお話を伺いたい
- ・ 倫理について
- ・ 倫理四分割
- ・ ACP
- ・ ACPについてもっと知見を深めたいと思った
- ・ ターミナル看護について
- ・ ユマニチュード
- ・ 勝原裕美子氏：組織行動論について
- ・ コーチング。定期的に聞きたい
- ・ コーチング。ファシリテーションスキル。にこにこ運動
- ・ 相手に効果的に伝える力を身につける・育む研修
- ・ 身体抑制最小化・身体抑制減数に向けた取り組みについて(2)
- ・ 行動制限を最小にするための実際の取り組み
- ・ 看護師の育成（フィジカルアセスメント）について院内研修など教育体制
- ・ メンタルヘルス、ネガティブ・ケイパビリティ
- ・ 新人Ns 教育に関すること
- ・ 忙しい・多忙を何とかするタイムマネジメント
- ・ 組織変革
- ・ とても役立つ講義内容が多くいつも楽しみにしている。役職者の感情コントロールしてほしい
- ・ 診療報酬を基に現場に求められている事は何か知りたい。国の意図を知りたい
- ・ 非認知能力（中山芳一先生）、発達障害／グレーゾーンの医療従事者との関わり方
- ・ メンタル不調を訴えるスタッフとの関わり
- ・ 今回のように管理者自身が元気になれるような内容が一番良い
- ・ 今回の研究会のように元気になれるものがない

◆ 参加者の状況

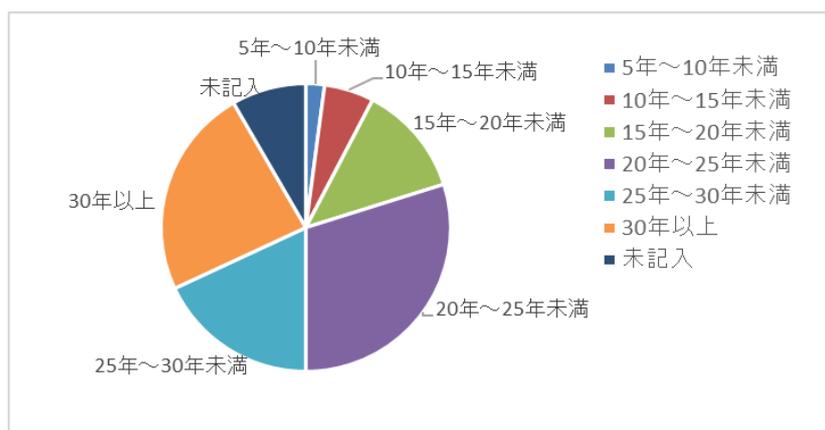
【年 齢】

20歳代	(2)
30歳代	(1 4)
40歳代	(6 1)
50歳代	(5 2)
60歳代	(6)
未回答	(9)



【勤務年数】

5年～10年未満	(3)
10年～15年未満	(8)
15年～20年未満	(1 8)
20年～25年未満	(4 3)
25年～30年未満	(2 6)
30年以上	(3 4)
未回答	(1 2)



【役 職】

看護部長・看護副院長・看護副部長	(8)
看護師長・課長・師長心得	(5 8)
副師長	(8)
主任リーダー・主任	(4 4)
副主任・係長	(1 6)
看護師	(1)
未記入	(9)

